

令和6年度 鹿児島学力・学習状況調査に係る本市の結果公表

令和7年4月8日 公表

1 調査の概要について

(1) 調査のねらい

学習指導要領において身に付けることが求められている知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識などの学習状況、学校の取組状況を把握するものです。

また、C B Tで実施することにより、一人一人の児童生徒が自らの学力や学習の状況を振り返ることで、自らの学びに生かすとともに、児童生徒の情報活用能力の育成につなげるとともに、各学校においては詳細な分析を個別最適な学びに活用するなど、指導法改善を図り、児童生徒の確かな学力の定着や向上を推進することを目指します。

(2) 調査対象（参加者数）

ア 小学校第5学年（714人）

イ 中学校第1学年（708人）

ウ 中学校第2学年（678人）

※ 参加者数は、国語科の調査に関する参加者数です。

(3) 調査内容

○ 小学校第5学年： 国語、社会、算数、理科及び児童質問調査

○ 中学校第1・2学年： 国語、社会、数学、理科、英語及び生徒質問調査

○ 各小・中学校： 学校質問調査

※ いずれも全面C B T方式での実施

(4) 実施日

令和7年1月14日（火）から1月28日（火）の期間のうち、連続する2日間を各学校が選択して実施

2 結果の概況について

(1) 学力の状況について

ア 小学校第5学年（数値は平均正答率）

	国 語			社 会			算 数			理 科		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	67.7	76.8	60.2	65.7	63.9	67.6	69.9	77.2	60.4	70.2	71.9	68.8
県平均	64.6	73.3	57.1	61.8	60.2	63.3	65.6	73	48.9	65	65.2	64.8

イ 中学校第1学年（数値は平均正答率）

	国 語			社 会			数 学			理 科			英 語		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	66.3	65.9	66.9	57.0	55.5	59.2	53.5	62.2	46.7	61.7	58.8	63.4	60.6	62.8	57.5
県平均	62.9	63	63	52.4	51.1	54.2	48.8	57.2	42.2	57.9	55.3	59.5	58.8	60.9	56

ウ 中学校第2学年（数値は平均正答率）

	国 語			社 会			数 学			理 科			英 語		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	68.4	73.7	60.7	47.9	45.8	50.9	44.9	52.5	35.2	53.6	59.3	48.9	55.2	56.3	53.7
県平均	66.3	71.9	59.1	47.0	44.3	50.8	40.9	47.9	31.9	52.4	57.7	48.0	52.8	53.9	51.2

エ 各学年調査結果を踏まえた分析

- 小学校では昨年度に引き続き、中学校では数年ぶりに全ての教科で県平均を上回ることができました。
- 児童生徒一人一人の学力の定着の状況には個人差が見られます。また、中学校社会科や数学など、教科によっても定着の状況に差が見られます。
- タブレットをスクロールしながら問題を読み取り、情報や思考を整理しながら回答を入力していく CBT 方式の特性への対応に難しさを感じた児童生徒も多かったようです。

(2) 学習の状況について

県や前年度の本市の回答結果と比較して、特徴的な内容は次のとおりです。

- 「授業が分かりやすい」と捉える児童生徒の割合が増えた。
- 自分で考え、粘り強く取り組むことについては、できていると捉えている児童生徒が増えている。
- 児童生徒は、教師の説明が多い授業よりも、自分たちで考えたり話し合ったり、難しい課題に挑戦したりする授業に魅力を感じており、そのような授業になっていると捉えている児童生徒の割合は増えている。
- 児童生徒の自己肯定感については高まりがみられる。また、教師の側も積極的に児童生徒の良さを捉え、称賛することができている。
- 児童の捉えに対して、学習者主体の授業の実現に向けた授業改善については、「まだ十分でない」「もっとできる」と捉えている教師が多い。

(3) 今後の取組

本市は、「学力向上アクションプラン推進事業」を中心に、各中学校ブロックを単位とした共通実践、研究授業を通した研修会の実施など、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組を推進しています。事業の趣旨や重点を踏まえ、各校では、自校の成果と課題を明確にし、実態に応じて重点取組内容を具体化して、学力向上の取組について引き続き取り組んでまいります。

3 家庭・地域へのお願い

学習習慣の定着のためには、落ち着いた心で学習に臨むことができる環境づくりや、学ぶ意欲を高める働きかけとともに、家庭学習の習慣化が大切です。各家庭では、低学年の時から家庭学習にしっかり取り組めるよう環境を整え、子どもたちのがんばりを認めることを中心にしながら、粘り強い声かけや励ましをお願いします。（4月当初に学校から配布される「家庭学習の手引き」を参考にしてください。）

子どもたちが将来の夢や希望に向かって努力できるよう、引き続き、学校・家庭・地域が協働した支援や働きかけをよろしくお願いします。